

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0667 ◆◆◆

21/12/22

【 2021 年の為替・金融業界 10 大ニュース 】

今年も残りわずかなるなか、今回の当レターでは年末恒例である筆者の独断と偏見で選出した今年一年の「為替・金融業界 10 大ニュース」を報じてみたい。読者の皆さんの考えるニュースは果たしてランクインしているだろうか。

◎引き続き「新型コロナウイルス」のニュース席卷、ただ金融関係の話題も多い

まずは筆者の考える「為替・金融業界 10 大ニュース」を以下ですべて列挙、そのあとで簡単な解説や講評などを記してみたい。

- 1;「コロナパニック」続く、ワクチン開発ならびに接種進むも変異も加速のイタチごっこ
 - 2;米FRBが量的緩和の縮小開始決定、英国はいま一步踏み込み「G7 で初のコロナ後利上げ」実施
 - 3;NYダウなど米株は年間を通した右肩上がり、史上最高値更新など好連鎖続く
 - 4;人権問題などで米中対立がさらに先鋭化、また「米 vs 中」から「日米欧 vs 中露」に色彩変化も
 - 5;ドル/円の年間変動率・同幅、17 年以来の大きさで久しぶりの「大相場」
 - 6;日米独などの主要国で大統領や首相などいずれもトップが交代、米国はバイデン大統領誕生
 - 7;暗号資産(仮想通貨)ビットコインが史上最高値を再び更新、一時 67000 ドルレベル
 - 8;不安定なトルコ情勢嫌気しリラ安が続く、対円では一時 6 円割れうかがうなど史上最安値更新
 - 9;コロナ感染拡大収まらないなか、東京オリンピック・パラリンピックを開催
 - 10;「不動産リスク」や「電力不足」問題など、様々な中国国内問題が顕在化
- 番外;「衆院選で自民党が単独過半数獲得」、「中国不動産リスクの代表格・恒大集団が『一部デフォルト』」、「東京五輪で日本は史上最多のメダル 54 個獲得」、「来年 2 月北京五輪の外交的ボイコット相次ぐ」、「真鍋淑朗氏がノーベル物理学賞受賞」、「愛子様、20 歳を迎え成年に」、「米軍がアフガン撤収、米最長の 20 年戦争終結」、「野球の大谷翔平さんが米大リーグで大活躍」、「将棋の藤井聡太さんが新竜王、最年少で四冠獲得」――(順不同、敬称略)

――改めて指摘するまでもなく、昨年に続き今年も「新型コロナウイルス」関連のニュースに振り回された一年だった。前述したように、ワクチンの開発や接種に関する報道も連日のように観測されていたが、当のコロナもデルタ株やオミクロン株といった変異を何度も繰り返し、いまだに予断を許さない状況だ。ただ、来年はさすがに 3 年目。「根絶」といったことは難しいにしても、そろそろ世界的に落ち着きをみせる状況になる――と期待半分で予想しておきたい。

一方、金融と絡めたような話も、今年はとでも多かった一年だった気がする。2 位や 3 位、5 位、7 位、8 位などがそれに相当するもので、なかでも為替業務を主とする人間としては 5 位の話は非常に喜ばしい。当レターで何度もレポートしているように、変動相場制という過去の平均と比べるとまだまだ不十分。「諸手を挙げて」喜ぶレベルにはないものの、それでもここ数年の不甲斐なさを少しでも払拭できた、来年に繋がるものとしてかなり印象深い出来事だった。早くも来年の動静を、いまから期待している。

なお、社会全体を通しての出来事でいえば 6 位にランクインした「日米独などで国のトップが交代」したことはかなり大きな出来事で、通常年であれば年間のトップニュースでもおかしくはなかったのではないだろうか。また 2 位や 3 位、4 位の要因とともに、「国のトップ交代」に関するニュースは、来年も引き続き金融市場における変動要因として注意しておく必要があるようだ。(了)

――注: 今年当レポートの休刊がありません。来週 12 月 29 日付もキチンと発行する予定ですので、引き続きよろしくお願いたします。



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、

ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter